

どまらず、企画運営・開発創造への参加をも含めた大胆な社会参加の方策が示されるべきではないか。生協がもっている人的・物質的諸条件を生かして、学校価値観を超えた新しい青少年育成の基盤づくりを探究して欲しい。「教育協同組合」の理念と実践をさらに深めることがそのポイントだと思われる。が私は、学校外の子ども・青少年の

とりくみは〈教育〉協同とせず、多様な文化的参加を重視した〈文化〉協同として発展させた方がよいと考えているので、その点は今後大いに議論してみたいところである。

今求められている〈安心と協同〉の子育て実現にむけて、貴重な問題提起の書が出版されたことを喜びたい。

研 究 所 日 誌

1995年 4月

- 2日 労協連「食生活関連事業交流会」を無茶々園にて開催。食関連事業に取り組む労協連の各事業団、事業所、研究所からは菅野正純、佐藤弘子が参加（～3日、愛媛・明浜町）。その後、無茶々園は日本労協連に加盟を決定（農事組合法人無茶々園、組合員72名、農産物品主に蜜柑委託販売、93年度事業高3.8億円）。
- 6日 研究所パソコン通信の実施に関して、コンピュータユニオン篠塚氏をまじえ検討会議。
- 7日 高齢者福祉研究プロジェクト、愛知県調査。愛知高齢者協同組合（愛知高齢者事業団）、生きがい生協（名勤生協）、広瀬謙一（～8日、名古屋）。
- 8日 エコテック、住宅用太陽光発電システムの説明会開始。以後各地で開催。
- 8日 黄柳野高校、開校記念レセプション（15日は入学式）。
- 11日 高齢者福祉研究プロジェクト、東京調査。デイサービスいずみ、前川禮太郎、森山千賀子、矢部正治、広瀬（保谷）。
- 11日 労協連九州ブロック「よい仕事交流会」、講師：菅野（～12日、鹿児島）。
- 14日 事務局会議（研究所）。
- 17日 第2回循環型地域社会をめざす研究会、報告：飯島信吾「産直運動のもつ意味」（新宿消費生活センター）。
- 18日 地域教育連絡協議会、佐藤洋作氏と懇談。つげの塾とのネットワーク化を中心に。小沢房生、広瀬（三鷹）。
- 21日 黄柳野高校の運営と組織のあり方についての検討会。教育協同組合の方向をつくりあげる。小沢、菅野（設楽町）。
- 21日 高齢者福祉研究プロジェクト、兵庫調査報告検討会（研究所）。本研究プロジェクトは6月末に報告書を完成させる。
- 22日 労協連、建設労働者協同組合設立総会、広原盛明京都府立大学学長の記念講演、参加者2百余名（神戸）。※本号に関連論文。
- 24日 「協同の発見」第37号（1995年4月号）発行。
- 25日 埼玉県所沢市でのホームヘルパー養成講座の企画会議。映画「病院で死ぬということ」の上映実行委員会が母体となる（所沢）。

~~~~~事務局よりのお願ひ~~~~~  
 新年度にあたり転居、転勤による住所変更や勤務移動などがありましたら電話、FAX、郵便のいずれかの方法で研究所事務局までお知らせ下さい。

住所：〒169東京都新宿区高田馬場4-2-31瀬古ビル  
 電話03-5389-6401 FAX03-5389-6403